

メルヘンと歴史のはざままで

——モーツァルトの歌芝居《後宮からの逃走》解説

2016年秋に行ない大好評を博したリベラルアーツ教養講座『ワーグナー《ニーベルングの指環》のコスモロジー』（全5回）の続編。今回は11月下旬に予定されている東京二期会の公演に照準を合わせ、一回完結でモーツァルトの歌劇《後宮からの逃走》をとりあげます。

上演に先立ち予習をしておきたいという一般の音楽愛好家のニーズにも合わせ、作品の形態、あらずじ、登場人物、見どころ・聴きどころを、音楽や映像も交えて、わかりやすく解説。さらにはこの作品をめぐる様々な解釈や演出の潮流を紹介しつつ、講師自身による最新の研究成果に基づいて、18世紀の地中海世界におけるイスラム圏とキリスト教圏の攻防という視点から登場人物の性格や歴史的背景に光を当て、従来、荒唐無稽なメルヘンと見なされてきたこの歌劇が同時代の政治や社会の状況と密接に結びついていたことを解き明かします。

日時：2018年11月1日（木）18時～21時（17時半開場）

場所：東京工業大学大岡山キャンパス

西9号館2Fデジタル多目的ホール

受講料：1000円を受付で徴収

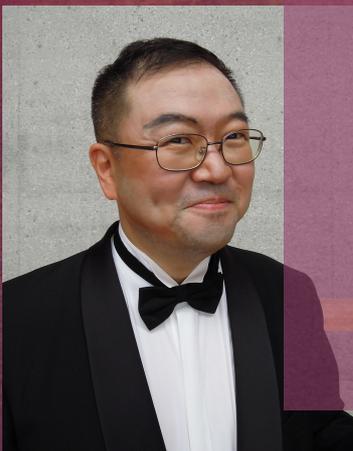
（本学学生および教職員は無料）

*当日そのままいらしていただいても、満席にならないかぎり入場は可能ですが、おおよその人数把握および席の確保のため、下記の申し込みアドレスに簡単に氏名（人数）を明記して送っていただくと、主催者としてはありがたく存じます。申し込みがあった時点で、メールにて確認の返信をいたします。申し込み先：ila2018@ila.titech.ac.jp



講師：山崎太郎

1961年生まれ。東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授。本学ではドイツ語の授業のほか、文系教養科目『オペラへの招待』を担当。専門はリヒャルト・ワーグナーの楽劇を中心とするドイツ・オペラの研究で、主要著書は『教養講座《ニーベルングの指環》——読む・聴く・観る！ リング・ワールドへの扉』、アルテスパブリッシング。近年はドラマトゥルグ（オペラ制作の学術アドバイザー）としても活動、2004年に日生劇場で行われた《後宮よりの逃走》公演でも、演出コンセプトの準備と打ち合わせに加わり、上演台本+字幕の作成、プログラムの執筆・編集に携わっている。



問合せ：リベラルアーツ研究教育院文系教養事務
電話：03-5734-7689（平日9:30～16:00）
e-mail：ilasym@ila.titech.ac.jp